

長野県寿台養護学校は、松本盆地の東端部、鉢伏山の麓、標高 746 メートルに位置しています。校歌に「西にアルプス 青い空」とあるように、学校からは北アルプスの峰々と松本盆地のすばらしい景色を望むことができます。

昭和 58 年度に病気を治療しながら学ぶ場として開校した本校ですが、平成 30 年からは知病併置校としてスタートしました。令和 5 年度は 156 名の児童生徒が、寿台養護学校本校、松ろうキャンパス、院内教室それぞれの場で学んでいます。R5 年度は、学びの場ごとの「めざす子どもの姿」に向かい、子どもたちの良い姿をたくさん引き出せるよう全職員で取り組みます。

学校教育目標は、「知恵をたがやし 心をゆさぶり 体をうごかす」です。

日々の学校生活の中で、どの子からも、「楽しく過ごしたい、知りたい、できるようになりたい」という想いを感じます。豊かに生きていくための知恵を身につけ、「できた、わかった」をたくさん感じられるような授業づくりをめざします。

様々なことを体験すると、成功も失敗もあります。これは、大人も子どもも同じです。でも、やってみたからこそ、失敗は生まれるのです。楽しい、うれしいを増やすことを大事にすることはもちろんですが、児童生徒の悲しい、悔しい思いも受け止め、その心の揺れも成長やそのための学びにつなげていきたいと考えます。

新型コロナウイルス感染症の制約が、徐々に軽減されています。教育活動も、経験の幅を拡げられることに期待が膨らみます。コロナ禍を経験して得られたものも大事にしながら、感染症のリスクに対応した教育活動を着実に進めてまいります。

保護者の皆様はじめ地域及び関係機関の皆様とともに、学校づくりに取り組みます。これからも多くのご支援とご協力をお願いいたします。また、お気づきの点やご要望など、お気軽にお寄せ下さい。

寿台養護学校長 小松 恭子